



国民の森林・国有林

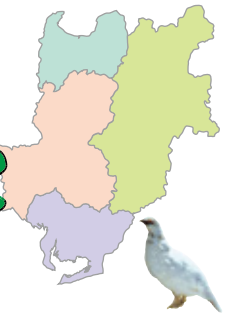
林野庁  
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5  
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



## 12月号

メールマガジン登録で本誌記事や観光情報のデジタル版を毎月お送りします。  
登録サイト：<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



一日中部森林管理局長に就任した2020ミス日本みどりの女神の井戸川百花さん（中部森林管理局 広報）

<b>主な項目</b>	<b>☆特集！</b>
	<b>2020ミス日本みどりの女神 井戸川百花さん一日中部森林管理局長に就任 ……P1</b>
	○ 本局トピックス（国有林野の所在する市町村長等との連絡協議会を開催～ほか） … P 3
	○ 各地からのたより（獣害対策の実施～ついで見回り・通報～ほか） …… P 4
	○ 森林のお仕事紹介コーナー ・「森林官からの便り」（岐阜森林管理署 板取川治山事業所） …… P 7
	○ 連載「木曾式伐木運材図会」の解説（第8回） …… P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」（南信森林管理署「大平宿」） …… P 9
	○ 新型コロナの感染リスクが高まる「五つの場面」に気をつけましょう！ …… P10
○ ㊦㊧木曾ひのきを活用した消毒液スタンド寄贈される／編集長だより …… P10	



# 2020ミス日本みどりの女神 一日中部森林管理局長に就任

2020ミス日本みどりの女神(井戸川 百花さん)が森林セラピーガイドの資格を取得したことを機に、森林セラピー基地や、教育・健康・観光分野等の異分野と森林分野の連携・協働を通じた新産業創出を目指す森林サービス産業のモデル地域等が全国で最も集積し、それらに対して国有林も一定の役割を果たしている長野県に招き、一日森林管理局長として、長野県知事、関係自治体の長、森林セラピー基地等の運営団体を表敬訪問し、日頃のご協力への御礼を行うとともに、国有林としての貢献も含めた森林セラピー基地等の活動発展に向けた意見交換を行いました。

## 『一日中部森林管理局長同行記』

当局では初となる一日中部森林管理局長(たぶん全国でも初!)に同行した二日間を時系列で、ご紹介させていただきます。

### 令和二年十一月十八日(水)

#### 10時(中部森林管理局)

中部森林管理局長(吉村 洋)より木製の委嘱状を渡され、一日中部森林

管理局長に就任しました。就任後は、職員訓示、各課への挨拶回りを行いました。



委嘱式の様子(上)  
一日局長の井戸川さん(左)



#### 12時(長野県庁)

#### 【長野県知事 阿部守一様を表敬】

阿部知事との懇談では、「新型コロナウイルスウィルス感染拡大の中、三密を避けるため森林を訪れる友人が多い」、「たくさんの方に森林で楽しんでいただけるように森林の魅力を発信していきたい」と伝えました。

阿部知事からは、「先月、植樹や緑化の活動を一層進めていくために大阪など五つの府と県と連携し『日本みどりのプロジェクト推進協議会』を立ち上げたところ、二〇二五年の大阪・関西万博では自然保護と活用を精神を世界に発信していくこととしている。井戸川さんには、ぜひ、長野県の緑の大切さ、森林が持つ癒しの機能を発信していただきたい」と発言がありました。



長野県知事との懇談

#### 13時10分(中部森林管理局)

#### 【上松町長 大屋誠様と懇談】

大屋町長から、「上松町の赤沢自然休養林は、森林浴発祥の地であり、森林浴には免疫を高める効果があることから、コロナ禍で是非このことをアピールしたい。また、今年開園五十周年のイベントが、残念ながら新型コロナ

ウィルスの影響で中止になったので、今後のイベントで井戸川さんにも協力をお願いしたい」と発言がありました。



上松町長との懇談

とを考えた」と応えました。

#### 14時40分(北信森林管理署)

#### 北信森林管理署長(中嶋 勝浩)から、管内の概要説明を受けた後に職員訓示を行いました。

#### 15時30分(なべくら高原森の家)

森林セラピー基地でもある、森の家周辺の「ブナの里山こみち」を、森林セラピーガイド(小林 知規さん)とともに五感を活かした森林セラピー散策を体験し、ガイドのノウハウについて意見交換を行いました。



飯山市長との懇談

足立市長からは、台風十九号災害時の様子のほか、飯山市は森林セラピー基地の認定に県内で早くから取り組んできたこと、ブナは市の木に指定されていること、冬の飯山にも魅力がたくさんあることについて発言がありました。

飯山市長 足立正則様を表敬  
昨秋の台風被害への御見舞いの言葉を伝えるとともに、森の家でブナ林を散策したこと、森林セラピーガイドの資格を活かしてブナをはじめとした森林のPRに努めていくことを伝えました。



ブナ林の中でガイドさんと意見交換

16時45分(飯山市役所)  
飯山市長 足立正則様を表敬

13時(信濃町役場)  
信濃町長 横川正知様を表敬  
横川町長から、森林の持つ癒しの力に着目し、町を挙げて取り組んでお



モデル林の説明

11時(アファンの森)  
故C・W・ニコルさんが手掛けてきたアファンの森の経済林としての生産性と森林の生態系回復を両立される試みを行っている「森林・林業再生モデル林(国有林)」の取組を視察しました。



馬とのふれあい体験

令和二年十一月十九日(木)  
10時(アファンの森財団ホースロッジ)  
アファンの森財団が持続可能な林業の実践を目指して飼育している馬と触れ合い、心を通わせるホースセラピーのプログラムを体験しました。

15時20分(中部森林管理局)  
中部森林管理局長へ活動報告  
「二日局長として、たくさんの方と出会い、意見を交わし、森林の魅力や可能性を知ることができました。今回の経験を踏まえて、森林の持つ可能性



信濃町長と森のPR映像を鑑賞

映像を見た横川町長から、「森の魅力があふれる作品になっていく。町のPRにも使わせてもらいたい」旨の発言がありました。

り、全国で唯一、森林セラピー基地の二つ星の資格を取得していると説明がありました。  
井戸川さんは、「信濃町を訪れるのは二度目で、森林セラピーガイドの資格を習得する前に、初めて森林セラピーを体験したのは信濃町です。また、先日公開された信州信濃町癒しの森のPR映像には、信濃町の国有林を舞台にアファンセンターの前で、森のシンガーソングライターの前で、山田証さんと私がコラボした歌と映像が使用されています。今後も森林の魅力を多くの方に発信していきます」と発言。

※この取組は、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」中央事業「ミス日本みどりの女神」モデル派遣事業を活用して実施しました。



中部局職員のお見送り

15時50分(中部局正面玄関)  
一日局長、お疲れ様でした。  
コロナ禍において社会が大きく変容する中、国有林を含めた森林空間等の素晴らしさを多くの方々に発信していただくことを期待しています。  
また、井戸川さんの笑顔に職員一同、元気をいただきました。



一日局長の活動報告

や魅力をたくさんの方に発信していきます」と報告があり、吉村局長は、二日間の活動に對し、感謝の言葉を述べました。

### 〈本局トピックス〉

## 国有林野の所在する市町村長等 との連絡協議会を開催

### 【企画調整課】

十二月一日、中部森林管理局の大会議室において、管内十地区の「国有林野等所在市町村長有志協議会」（以下、「有志協」）の代表世話人（うち六地区からは市町村長）の出席を賜り、連絡協議会を開催しました。

有志協は、地域社会と国有林野事業の連帯強化を図るため、管内各地区に昭和五十二年以降に設置し毎年開催しており、連絡協議会は、各地区の有志協における意見・要望を集約し、今後の管理経営や政策の参考とする場でもあります。

林野庁から W



(左から、からさわ唐澤木祖村長、くにしま國島高山市長、やまうち山内下呂市長、あおやま青山中津川市長、はらだ原田設楽町副町長)

EB 出席した関口経営企画課長ほかより林政の最近の動向について説明があり、各代表世話人からは、令和二年七月豪雨災害の早期復旧への要望や森林管理の対応に係る御礼、国有林野の利活用による観光振興、ツキノワグマの出没・被害への対応、市町村職員への技術の普及や林業後継者の育成など、様々な意見や要望が寄せられました。

また、森林の多面的機能の発揮や林業関係者の人材育成など課題解決に向け、有志協のネットワークを活用しながら、代表世話人間で連携して進めていくことを確認し、三時間半にわたる貴重な意見交換の機会とすることができました。



(左から、しづかり白鳥伊那市長、たかみず高見澤止田市森林整備課長、あさひ天羽次町市農林水産課長補佐、ひたし日臺木島平村長、さいとう齊藤南砺市副市長)

## 名古屋林政記者クラブ

### 国有林視察

### 【名古屋事務所・岐阜森林管理署】

九月三十日、岐阜森林管理署管内で林政記者に国有林の取組などを紹介しました。

例年、一泊二日で長野・名古屋林政記者クラブで行っています。今年も新型コロナウイルスの感染防止のため日帰り実施することとし、在名古屋三社（日刊木材、林経、木材工業）が参加しました。



獣害対策展示エリアの取組を説明  
(七宗国有林)

今年のテーマとしては、国有林を含めて問題となっている「獣害対策」を中心に七宗国有林・金華

山国有林での取組を視察し、七宗国有林では、ニホンシカ対策として防護柵の代わりに、皆伐造林地を囲むように「くくり罫」を設置

することにより、造林地へのニホンシカの侵入を防ぐ取組、「囲い罫」「箱罫」「幼齢木保護資材」など獣害対策を展示しているエリアなどを視察後、金華山国有林に移動し、イノシシ被害対策として「緩衝帯」の整備状況などについて視察を行いました。



イノシシ被害対策「緩衝帯」について説明  
(金華山国有林)

記者の皆さんには、当局が行っているシカ対策に非常に関心を持っていただけました。

今後、コロナ禍の中ではありますが、国有林の取組を積極的に紹介していきたいと思っております。

### 獣害対策の実施

#### 「ついで見回り・通報」

##### 【南信森林管理署】

今年度から浦国有林において、「ついで捕獲」「ついで見回り・通報」を本格的に実施することとしました。国有林内で効率的にニホンジカを捕獲するため、該当箇所を選定、捕獲実施者、事業者との協議を重ねた結果、当局管内では初となる「ついで見回り・通報」の基本合意書の調印を平成三十年八月八日に上伊那猟友会、船形沢地すべり防止工事（治山工事）を請け負う宮下建設（株）伊那市、当署の三者により行いました。六十六日間で百五十八頭を捕獲しました。



猟友会員によるくくりワナの設置の様子①

令和元年度には、三百二頭を捕獲し、大幅に成果を上げることができました。

三年目となる今年は六月二十七日に百五十基の「くくりワナ」を設置した翌日には六頭を捕獲し、以降六月三十日までに二十一頭を捕獲しましたが、六月三十日から豪雨により奥浦林道が路肩決壊するなどの甚大な被害が発生し、七月三日に十五頭を捕獲した後、ワナを撤収することとしました。

今後は、新たに手良沢山国有林において「ついで見回り・通報」を実施し、ニホンジカ被害防止対策を積極的に推進していくこととされています。



猟友会員によるくくりワナの設置の様子②

### 富山県地域振興団体協議会

#### 現地検討会の開催

##### 【富山森林管理署】

十月二日、富山県地域振興団体協議会が主催する現地検討会が立山町で開催されました。

本協議会では、富山県・市町村及び富山署の参加により、毎年県内各地の国有林・民有林で行われている様々な取組を現地視察し、森林の保全等をテーマに情報交換を行っております。

今年度は、ブナ坂国有林において、過去の黒部川第四発電所（黒四ダム）工事に伴う資材運搬路跡地の緑化復元の状況について視察



緑化復元の状況を説明している様子

し、緑化木の成長は良いが、最終目標である周囲の植生と等しい草原の景観とは異なっていることや、見通しが悪く、バスの運行安全上も懸念されていることを確認しました。

また、弥陀ヶ原・室堂周辺において、緑化復元の特徴、緑化植物の選定などについて、富山県森林研究所の方から説明を受けました。



室堂周辺に、緑化復元等の特徴を説明している様子

富山署では、関係者との連携や意見交換を行いながら、今後も地域の振興に取り組んでまいります。

## 2 森林整備推進協定

### 運営委員会を開催

#### 【愛知森林管理事務所】

十月七日、コロナ禍の中、新たな生活様式に配慮しつつ、令和二年度森林整備推進協定運営委員会を開催しました。

この協定は、平成二十五年三月に協定締結した東三河流域新城市区森林整備推進協定（新城市長外四者）と平成二十九年十二月に協定締結した設楽地区森林整備推進協定（設楽町長外四者）2地区のものであり、今回は協定地区が隣接地域であることから、合同での運営委員会としました。

当日は、新型コロナウイルス対策を十分に講じた上で各事務所等の事業執行状況、情報交換、団地化の可能性、作業道等の連携、民間連携のシステム販売などの可能性について意見交換を行いました。

運営委員会では、各市町村での森林環境譲与税等の活用状況や、新たな森林管理システムの進捗状況のほか、令和八年度完成予定の

設楽ダムのダム関連工事支障木の出材状況、今後に向けたさらなる団地化の可能性や路網の連携等に係る意見交換が行われました。

各市町村からは、森林環境譲与税では「人材育成の為に伐倒練習機の購入や木製名札などへの活用」、新たな森林管理システム等では「レーザー測量による林地台帳の整備から意向調査へと進めている」など報告がありました。

コロナ禍の中ではありますが、今後も流域、地域の中で関わりを強め、連携の可能性を模索していきたいと考えています。



運営委員会の様子

## 恵那農高 現地学習

### 木曾ヒノキ備林見学

#### 【東濃森林管理署】

九月八日、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科二年生三十七名が、中津川市加子母裏木曾国有林の「木曾ヒノキ備林」を見学しました。

この現地学習は、岐阜県の「緑と水の子ども会議」と題して地域の自然を題材とした環境教育を行うための支援事業で、恵那農高では毎年実施しているものです。

当日は当署職員による安全上の注意点等についての説明後、裏木曾古事の森育成協議会のガイドにバトンを渡し、二班に分かれて散策を開始し、御用材伐採式跡、二



御用材伐採式跡の説明

代目大ヒノキ等、天然林内を見学、その途中では旧森林鉄道敷やトチノキの巨木も見学しました。

生徒からは、「貴重な経験をさせていただき、自然環境とのつながりや関わりを考える機会となりました」と感想がありました。

心配された天候も、雨衣を着ることなく無事に終了することができましたが、当日は、前日までの雨のために湿度が高かったこともあり、ヤマビルに吸血される生徒や、蚊にまとわりつかれる生徒も多く見受けられ、自然環境の厳しさも体感しました。

これにめげることなく、森林に関心を持ち、親しんでくれることを期待しつつ、皆さんを見送りました。



二代目大ヒノキを見学

## 〈各地からのたより〉

### 「段戸 S A N」採材研修を実施

#### 【愛知森林管理事務所】

九月三十日、今年もいよいよブランド材「段戸 S A N」の供給時期になったことから、委託販売予定先である東海木材相互市場大口市場の鈴木政貴氏を講師に迎え伐採箇所である愛知県設楽町段戸国有林において採材研修を開催しました。

「段戸 S A N」とは、段戸国有林から産出される林齢百年を超える材の呼称で、市場の根強いファンから毎年出材を期待されているブランド材です。今年も、新型コロナウイルスの影響で思うように丸太が動かない中ですが、「三密」に配慮しつつ需要者のニーズに応えた、高付加価値の採材技術の習得を目指し、研修を行いました。

当日は、請負事業体である新城森林組合、名古屋事務所、当所から十六名の参加で行われました。

まず最初に、講師から「基本四材造材」、「根柢をはずす」、「三材なら直材」、「曲がりなら四材」

「二で曲がついていた場合は、二材採材も。ただし、二十四センチ以上」、「延べ寸については、役物取りは根柢が外れる程度付ける」など買収側のニーズを踏まえた丁寧な指導があり、その後、請負事業体や当所担当者との間で討論が行われました。

例年、丸太が一番高く売れる秋ですが、コロナ禍の風圧に耐えつつ、高付加価値でブランド材をお届けするため、当所一丸となつて供給に努めています。



講師から採材等の指導を受けている様子

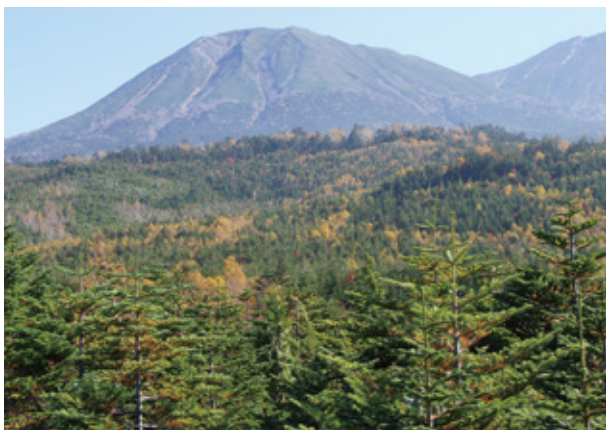
### 御嶽山胡桃島登山道整備

#### （名古屋造材素材生産事業協会）の社会貢献活動

#### 【飛騨森林管理署】

九月二十五日、名古屋造材素材生産事業協会による社会貢献活動として、高山市朝日町の胡桃島国有林内にある御嶽山登山道の整備が協会員十一名の参加により行われました。

この登山道は、胡桃島キャンプ場内にあり、森林浴、バードウォッチング等大自然を満喫できるキャンプ場で多くの利用者が訪れる一方で飛騨署側からの御嶽山



胡桃島展望台から望む御嶽山

へのルートの一つで、途中、小坂口ルート（濁河温泉から）と合流するルートです。

登山道は、下層植生を保護するとともに、登山者が歩きやすいように木道が約一キロあります。長年の使用により歩きにくくなつていました。



腐食した木道の補修作業の様子

今回の作業は、生憎の天候でしたが、腐食した木道の張り替えや苔で滑らないよう栈木を付け加えるなど約三時間の作業に汗を流しました。

今回の取組を通じて、多くの方々に安全に自然を満喫してもらえるよう施設整備を進めていきたいと思ひます。



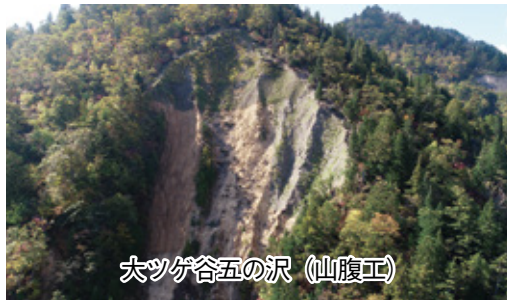
モネの池

板取川の周辺には多くのキャンプ場があり、河原でのバーベキューや水遊び、鮎釣り等を楽しむため、他県からも多くの観光客が訪れます。近年ではモネの池と称される

岐阜森林管理署 板取川治山事業所  
治山技術官 加藤 里実  
板取川地区民有林直轄治山事業地は、福井県と岐阜県の県境、岐阜県関市板取にあり、清流として有名な長良川の支流、板取川の最上流域に位置します。



国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。そこで各地にある森林事務所や地域の特徴、森林官の仕事などを紹介していきます。



大ツゲ谷五の沢（山腹工）

観光地が整備され話題のスポットになっていきます。板取川地区では平成十四年七月の台風六号通過に伴う集中豪雨により大規模な山腹崩壊や渓岸浸食が発生したことで大量の土砂が流出しまし

業を実施することとなりました。さらに、平成三十年の七月豪雨により当事業地と隣接する滝波谷地区で大規模な山腹崩壊、土砂流出が発生し、濁水等による被害が発生しました。早急に崩壊地や荒廃渓流の復旧対策に着手する必要があります。地元や岐阜県からの強い要請を受けたため、令和元年度より滝波谷地区が区域追加されました。

た。観光業や鮎の生育等への影響が懸念され地元から要請を受けたことから、平成十六年より民有林直轄治山事業



滝波谷の山腹崩壊

現在、滝波谷地区では、大規模崩壊地の復旧に向け、既設作業道の林道規格への改良及び新設工事により工事用道路の整備を進めています。また、崩壊地源頭部においては、今後の対策を検討するためボーリング調査を行っています。

県内各地で甚大な被害を受けた当時私は、岐阜県庁治山課に出向中であつたことから、その中でも被害規模の大きかった滝波谷地区を、民有林直轄治山事業に区域追加するための調整等を担当していました。全体計画の作成、地元や関係機関との合意形成等、プロセスの大変さもありませんでしたが、何よ



工事現場の立会確認中の筆者

りも民有林直轄治山事業という制度の意義を実感しました。地元の方の「不安を感じていたが直轄治山事業として早期に取り組んでもらえることで安心した、感謝します。」という言葉が心に残っています。今後とも工事を実行していく重要性を再認識し、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

■未来の担い手へのメッセージ  
近年、豪雨災害が頻発している中、治山業務は大切な役割を担っています。治山は難しい業務との印象を持つかもしれませんが大変やりがいのある業務です。是非興味を持ってくださると幸いです。



連載

「木曾式伐木運材図会」の解説 (第八回)

中部森林管理局技術普及課

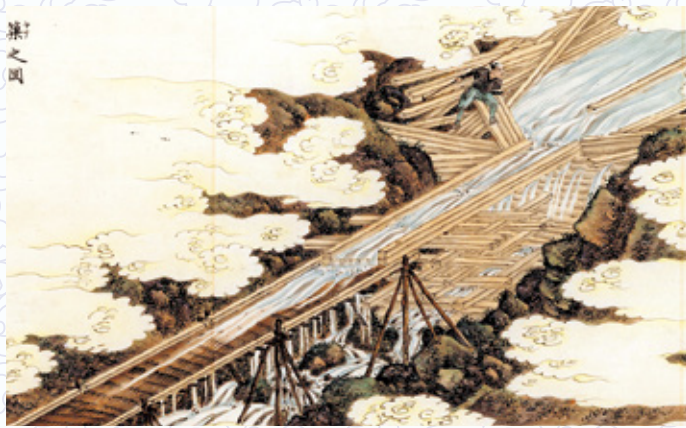
井上 日呂登

「図会」は山から沢へ、沢から川へ

木材を下す「運材」の場面が続きます。沢の水を利用した運材は「小谷狩」とも呼ばれました。

「築之圖」について

築と言いますと、川での漁法の一つとして現在でも残っていますね。ここではその築のように木材を組み立てて、貯めた沢の水を利用して、材木を滑り落とす仕掛けが描かれています。



「築之圖」より

「修羅之圖」について

「築之圖」に続いて、やはり沢の水を利用した運材の仕掛けが描かれています。既出のサデや築と似ています。



「修羅之圖」より

明治期以降に伝えられている木曾の「修羅」(シユラまたはスラ)と言え

ば、同じ木材を滑り落とす運材の仕掛けでも、丸太を並べた形のものを目指すのですが、いづれにしても、水で木材を滑りやすくする、勢いのついた材を水中に飛び込ませて損傷を防ぐという点ではよく似ているものです。

「樋之圖」について

山から木材を下していく運材の場面では随所に「堰」と呼ばれる水を貯めるポイントが設けられました。

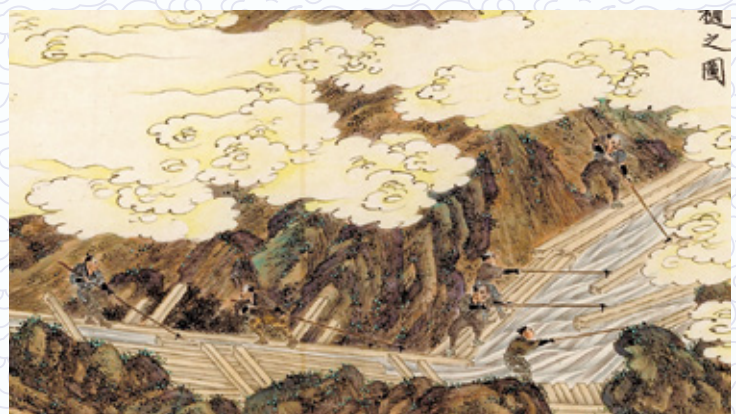


明治後期頃の木曾の修羅



明治後期頃の木曾の堰

小さな沢の水でも、隙間に苔、芝、落葉などを詰め込み、一滴も漏らさぬように工夫し、時間をかければ立派な堰が作れました。



「樋之圖」より

「樋之圖」では堰の水を利用して、低い場所から高い場所へ木材を運び上げる様を描いています。

次回からは下巻に移り、「管狩之圖」「鴨狩之圖」「登械之圖」について解説させていただきます。

中部森林管理局では、この「図会」を保管し、それぞれの場面を切り取ったものを画像としてホームページで紹介しています。

サイトは、QRコードを読み込んでください。なお、木曾式伐木運材図会は、一般公開は行っていません。





旧大平峠 (兀嶽国有林) から御嶽山を望む

大平宿は長野県飯田市 (三州街道) と木曾谷 (中山道) を結ぶ大平街道のほぼ中間地点、標高一、一五〇メートルの山中にあります。大平宿の始まりは江戸時代中期、飯田は飯田藩の城下町として栄えていましたが、当時、主要街道は中山道が通る木曾谷でしたか



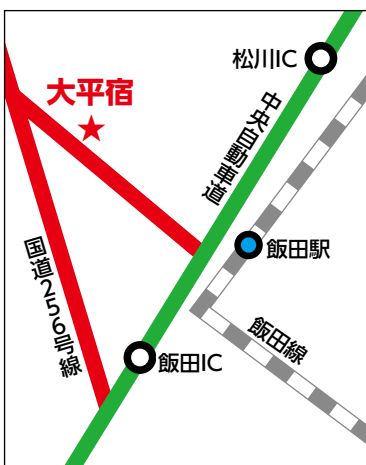
大平宿の集落入口

ら、そこへ出るために木曾山脈 (中央アルプス) を大きく迂回する必要がある、飯田藩は宝暦四年 (一七五四年)、中山道の宿場町である妻籠宿と城下を直線で結ぶ「大平街道」を新たに切り拓き、明治時代まで飯田と木曾谷を結ぶ主要道路として栄えてきました。しかし、大正時代になると伊那谷に鉄道が開通し、また昭和三十年代には峠越えの道路として清内路峠を越える国道二五六号線が整備されたことで徐々に衰退するとともに、昭和四十五年 (一九七〇年) に集団移住され廃村となっています。



切妻屋根の江戸時代からの家屋

その後、飯田市の上水道取入口付近の別荘地分譲がきっかけとなり、集落保存活動が始まり、全国の利用者によって集落全体が保存され、現在、大平宿は、飯田市自然環境保全地区、長野県郷土環境保全地区に指定されています。大平街道の道筋に沿って並ぶ家は、緩い勾配の切妻屋根が特徴となつていますが、トタン屋根に変えている家や、昔ながらの板葺屋根を石で留めた「石置屋根」の家も数多くあり山村集落らしい風情を醸し出しています。また、これらの家屋は、雪や雨



◆所在地  
長野県飯田市上飯田  
◆宿泊に関する問合せ  
長野県飯田市育良町1-2  
株式会社南信州観光公社  
電話 〇二六五-二八-一七四七  
◆アクセス  
〔自動車〕  
中央自動車道飯田ICから二五キロメートル(約六十

分) をしのぐため二階部分を手前にせり出して軒を深くしている「せがい造り」と呼ばれる建築技法で建てられています。この「大平宿」は、単に廃村では無く、電気・水道は使用できるものの、携帯電話は通じない不便な場所です。俗世間から離れ日常と違う生活を体験できる江戸時代の建物群として、現在、一般に広く開放されています。(宿泊は四月末〜十二月中旬まで)

新型コロナウイルスの感染リスクが高まる「五つの場面」に気を付けましょう！

『五つの場面』



- ① 飲酒を伴う懇親会等（大声での会話や回し飲み、箸などの共用）
- ② 大人数や長時間の飲食
- ③ マスクなしでの会話
- ④ 狭い空間での共同生活
- ⑤ 居場所の切り替わり（休憩室や喫煙所、更衣室での感染リスク）

感染リスクを下げていくためには、飲食店をはじめとする日常生活や職場でのこれらの場面に特に気を付けていくことが重要です。

改めて、三密の回避、手洗い、マスク着用、換気、共用施設の消毒などの徹底をよろしくお願いします。詳しくは、次のQRコードを読み込んでください。

◇感染リスクが高まる

「五つの場面」

（内閣官庁）



◇新型コロナウイルス

について

（農林水産省）



高国木曾ひのきを活用した消毒液スタンド寄贈される

十一月二十日、長野県木曾郡上松町に所在する「のむら木材株式会社」様より、木曾ひのきを活用した消毒液スタンドが当局へ寄贈されました。

このスタンドは、同社がコロナ禍において木材を使って何かできないかを考え、手をふれないで消毒液が出る足踏み式のスタンドを岐阜県内の企業と共同開発したものです。

材料には国有林から出材された高国木曾ひのきが利用され独特のつや感と香りのあるものに仕上がっています。

当日、局長室において同社野村



のむら木材(株)野村社長から、「長野県産木曾ひのき消毒液スタンド」が寄贈

社長より、吉村局長へ直接手渡しされ、社長より製品の説明とともに開発における苦労話があり、局長からは、「コロナ禍における木材利用のPRに活用させていただきたい」と期待感を込めたお礼の言葉が述べられました。

寄贈品は局の正面玄関や局長室の入り口に設置し、来局者の手指の消毒に活用するとともに、製品内容の説明書を付設し、木材利用をPRしています。

なお、当該製品は、県庁や木曾地域振興局、上松町役場、同町公民館、木曾森林管理署等にも設置されております。

（資源活用課）



中部局正面玄関に配置された「消毒液スタンド」

【お問い合わせ先】

のむら木材株式会社

長野県木曾郡上松町正島町一ー一八一

電話：〇二六四一五二一二四一七

FAX：〇二六四一五二一三五三〇

メール：info@nomura-mokuzai.co.jp

編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。）

中部の山々は、真っ白く化粧され、里の方にも白い妖精がチラチラ舞い踊る季節になりました。例年、この時期に頭に想い浮かぶものは、あったか〜いもの。寒いときほど、辛くて、痺れるようなキムチ鍋がいいですね〜。辛いものが不得手な方には、辛さを和らげるため、甘めの麴味噌や、麦味噌などと、食べる直前にひきわり納豆と仕上げの生卵を入れると味も栄養価もぐ〜んとアップ（卵は、半熟状態がよりまろやか）。キムチや納豆などの発酵食品には、免疫力を高める効果、辛いものには発汗作用、ストレス発散効果もあり、ここにたっぷりの野菜と豚バラ、まさにこの時期の健康食、医食同源。コロナ禍の中、家料理のひとつとしてお楽しみください。

また、目の保養、心の健康には、いつでもお気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジ森（もり）」で、美しい風景をご覧になってはいかがでしょうか。

☆デジ森！今月の広報主任官のお勧めサイト！  
どんなお勧めのサイトかは、以下のQRコードを読み込んでからの楽しみ！  
また、3つのQRコードの中には、過去へタイムスリップするデジ森の裏サイトがありますよ！

何かなあ

何だろう

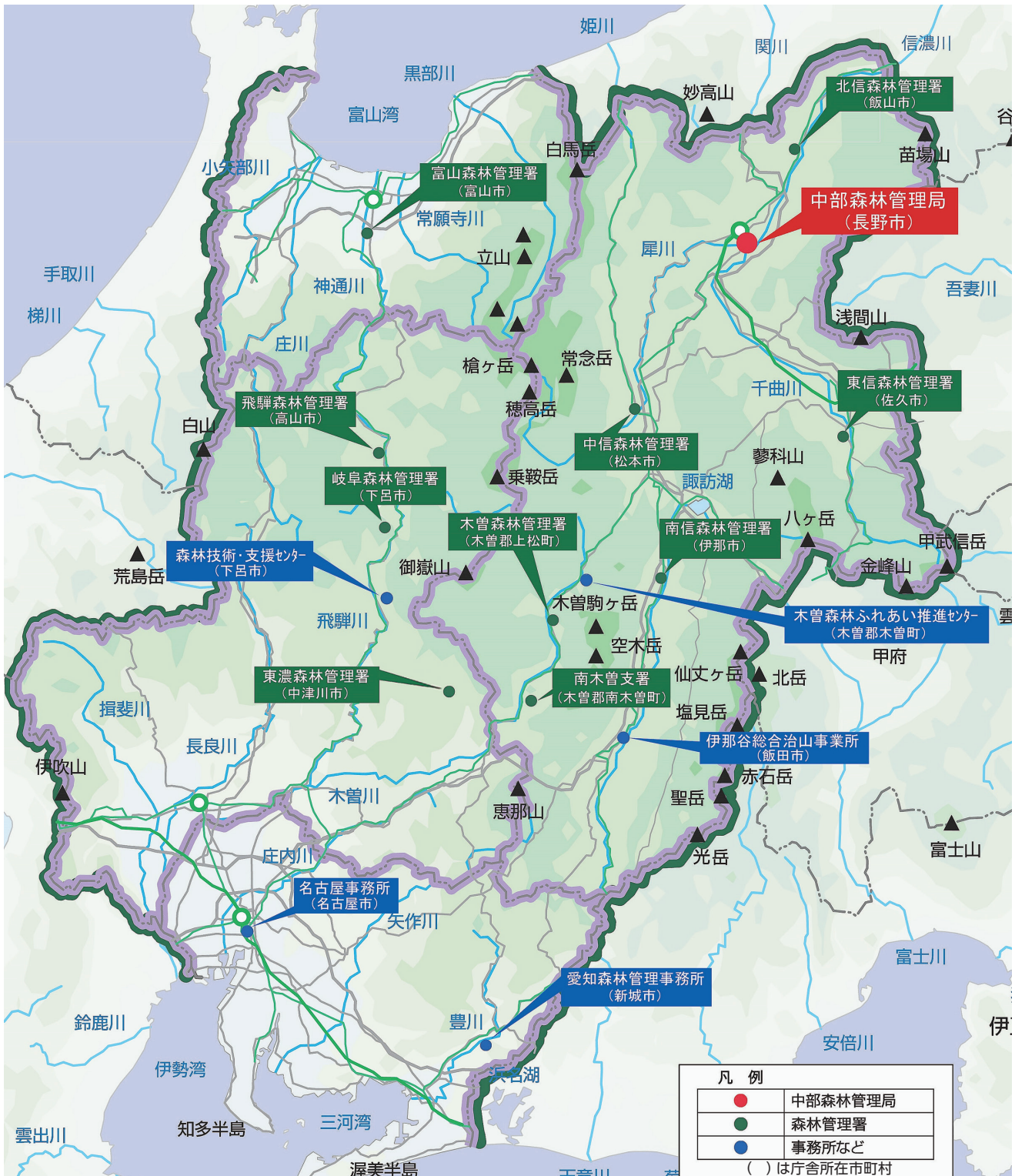


！（^^）！

（^^、^^）



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



お問い合わせ先 中部森林管理局 〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5 TEL 050-3160-6507 (代表) TEL 026-236-2721 (夜間・休日) FAX 026-236-2657

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曾森林管理署	〒399-5604	長野県木曾郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曾支署	〒399-5301	長野県木曾郡南木曾町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曾森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曾郡木曾町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149